

(熊本県立北稜高等) 学校 令和 7 年度 (2025 年度) 学校評価表

1 学校教育目標	
校訓「創造」「勤労」「感謝」のもと、専門性を生かした学びを通して、望ましい勤労観・職業観を身に付けるとともに、地域を知り、郷土愛を持った、将来の地域社会を担い、活躍できる人材を育成する。 「教育は人なり」の理念のもと、教職員が一丸となって、生徒一人一人の自己実現を支援する。 (1) 伝統ある校風の継承と創造 (2) 特色ある総合高校づくり (3) 学力の充実と個に応じた進路指導 (4) 教育環境づくりの推進 (5) 人権教育の推進 (6) 安全教育の推進 (7) 地域社会から信頼される学校づくり	

2 本年度の重点目標	
(1) 学びの充実と進路実現 ア 学科横断型カリキュラムを活かし、幅広い知識・技術を習得 イ 大学進学・就職など多様な進路に対応した指導の強化 ウ 各科の特色を活かしつつ、全職員で全生徒を育む エ 実践的な学習を通じた自己実現の支援 (2) 地域との連携と社会貢献 ア 地域社会と協力し、実践的な学びを深める イ 変化する社会に適応し、地域に貢献できる人材の育成 ウ 地域イベントや産業との連携を強化 (3) 人権・安全教育の推進 ア お互いを尊重し合う人権教育の充実 イ 学校・地域の安全を守る意識の醸成 (4) 創立 80 周年の伝統と新たな挑戦 ア 「創造 勤労 感謝」の校訓を胸に、新たな時代への挑戦 イ 80 年の歴史を受け継ぎ、未来へ向けた学校づくり (5) 働き方改革による教育の質の向上 ア ワーク・ライフ・バランス イ コミュニケーションとチームワーク ウ 時差出勤の有効活用	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	本校のスクール・ミッション及びスクール・ポリシー、重点目標の周知・理解に向けた学校情報の分かりやすい発信	全職員が共通認識として実践する。生徒・保護者にスクール・ミッション及びスクール・ポリシーを 90% 以上認知させる。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議や研修等で常時啓発する。教室への掲示、学年集会等、全校集会での周知。 学校評価アンケートによる認知の分析 育友会総会、広報誌、学校行事や HP、すぐー等を通じて啓発を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 認知度は、評価アンケートより生徒 93.1%、保護者 94.4% となり、目標値を達成できた。今後も HP や資料を活用し、継続した啓発が必要である。
	生徒募集	募集定員の確保	今年度入学者 (65 名) に対して 15% 増 (約 75 名) の志願者確保を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な中学校訪問、地域行政との連携、体験入学の実施、学校内施設を活用した小中学校との交流学習の実施、HP、SNS 等で魅力ある学習内容の広報充実を図る。 生徒の意見を踏まえたわかりやすいパンフレットの作成。 HP ブログ、SNS による情報発信を強化し、HP は毎月 10,000 アクセス数以上を達成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集に向けて、JR 沿線沿を中心に県央地域までパンフレットを配布、Youtube (動画配信) による配信を継続し、学校公式 Instagram (SNS) を新たに開設し、学校 PR を行った。前期 (特色) 選抜では 65 名の出願があり、約 10% 増加した。 学校 HP へのアクセス数は、1 月末で 280,255 件 (285,718 件) となり、昨年度を下回ったが月 13,000 ~ 53,000 アクセスを達成した。Instagram の閲覧数は大きく増加し、生徒・保護者アンケートからも 90% 以上が情報発信できていると回答している。

学校運営	業務改善	生徒たちと向き合う時間を確保し、やりがいを持って効果的な教育活動を持続的に行うことができる環境の実現	教職員の勤務時間の削減を図り、教職員が本来の業務に一層専念できる環境を整える。文書事務における業務負担の改善、効率化及びペーパーレスを実施し、校内の各種会議等を削減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務効率を高めるアプリの紹介や実践を含めた校内研修を月1回以上実施し、職員のスキルアップを図る。 ・校内ネットワーク内の整理・活用による業務資料及び生徒情報管理の統一化の徹底、校務支援システム、チャット等の有効活用による会議等の削減 ・朝会、各種会議のペーパーレス化を図り、職員の印刷、配布、資料整理に係る業務を軽減する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器活用に関する職員研修を教務部主体で月1回以上実施し、全職員が授業研修に取り組んだ。 ・運営委員会、職員会議、朝会資料等のペーパーレス化が定着し、印刷用紙やインク等の経費削減や業務効率化につながった。 ・職員チャットの利用が定着し、打合せや連絡会の削減につながった。 ・採点システムが導入され、職員研修を実施したが、本格的な運用はごく一部に限られた。
学校経営	働き方改革	教職員が心身ともに健康で、ワーク・ライフ・バランスを実現できる職場環境の整備	全教職員が働き方改革の必要性を理解し、月の時間外勤務時間の平均が上限の45時間以内、年の時間外勤務時間合計540時間以内を全職員の80%以上実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日・部活動休養日の計画的な設定。 ・時差出勤の積極的な運用。 ・教職員1人当たり年次有給休暇について、平均取得日12日以上への推奨。 ・業務の平準化のための校務分掌の見直し。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日を5日設定し、部活動休養日は平日1日及び土日の1日を休養日とした。HP等で生徒・保護者へ周知（部活動は毎月周知）した。 ・1月末までの時間外勤務時間は月平均32:30h（昨年度33:38h）であり、1h減少した。 ・職員の約5割が年間10日以上年次有給休暇を取得し、夏季休暇を含めた休暇取得日数の職員平均は15.96日であった。 ・夏季休暇を職員全員が5日間取得した。（昨年度94.4%） ・時差出勤は全職員の3割以上が利用した。（15名が利用）
	開かれた学校づくり	保護者・地域行政等との連携	学校行事等の参加啓発、地域関係機関と協働した事業企画、専門学科の特色を生かした取り組みの発信を行い、本校の魅力化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保護者連絡システム「すぐーる」を活用した学校行事等の案内と参加啓発。 ・地域行政及び玉名市内の県立高校が協働する高校魅力化コンソーシアム事業の推進。 ・インターンシップや体験教室、農産物販売、ボランティアなど、地域における生徒の活動機会を創出し、地域協働を実現する。 ・学科ごとに小・中学校との交流事業を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・玉名市との地域連携では、「玉名未来づくり研究所」に参加し、総合的な探究の時間の成果につなげた。 ・玉名市内の県立3校と玉名市が協働した高校魅力化コンソーシアムが事業化され、組織体（案）を概ね確定した。 ・商業施設等でのワークショップ、中学生向け体験を定期的実施した。 ・各学科の学びを生かし、地域に根ざした交流活動を実施できた。（箱庭展示、玉陵小・中学校との門松作り、幼稚園との廃材を活用した食育交流、小中学校との花壇づくり、収穫体験、無人販売等） ・昨年度から継続し、玉名町小学校との農業交流、JAたまなと協働した親子農業体験を年間4回実施した。
学力向上	授業の改善	観点別評価を意識した授業改善の実施	すべての職員が研究授業を実施し、参観者の過半数より授業内容や評価方法に関して助言を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別時間割を作成し、全職員が研究授業を実施・参観できる環境を整える。 ・研究授業のテーマを観点別評価、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価に限定し、評価手段や実際の評価結果を職員で共有できるような様式を作成する。 ・過年度の観点別評価の実施状況を分析して職員に提示し、現状での課題点を共有する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に授業研修期間を設定し、授業を担当している職員34人全員が、研究授業を実施した。その中で、授業内での観点別評価の結果を参観者と共有した職員は29人（85%）、さらにその中で授業者の評価方法に対するコメントを返した職員は34%に留まった。再三再四、コメント記入の働きかけを行ったうえで34%という結果は、研修の趣旨を十分周知できてなかったと感じる。

学力向上	学力の向上	生徒の学力状況の把握と共有	全校生徒の小中学校段階における基礎学力を把握・分析し、学年や教科を越えて現状を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度まで実施していた業者作成の基礎力診断テストはコストがかかり難度も高かった。また、学年単位での実施のため、情報共有が難しかった。 ・本校生の実態に合わせた校内独自の学力チェック問題を用意し、全学年一斉に実施することで、学科・教科を越えた情報の分析・共有を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に本校独自の基礎学力チェックを全学年に対して実施した。さらにその集計結果を、学年を越えて教科会等で共有した。 ・数学や英語では、生徒の学力に関する具体的な情報が得られ、有効であった ・次年度も継続し、生徒の学力推移を分析したい。
キャリア教育	進路意識の啓発	進路の早期決定と目的意識の啓発	各学年・学科の連携と継続した進路指導の展開と全職員によるキャリアカウンセリングを実施する。 生徒の諸活動の振り返りを通して、進路指導を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し職員に対するキャリアカウンセリングの啓発活動を行う。 ・進学ガイダンス、企業ガイダンス、職場見学、インターンシップ、オープンキャンパス等に積極的に参加させる。 ・キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己を振り返る機会を設け、それをもとに進路意識を高める指導を行う。(手帳等の活用) ・1年生は「総合的な探究の時間」で系統的に進路学習を行う。 ・ChromeBookを活用して、進路情報の提供等を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路関係行事や研修等の参加を促すとともに、進路情報を共有し担任による進路指導につなげている。 ・進路ガイダンスやオープンキャンパスに数多く参加し進路情報を収集することができた。 ・キャリアパスポートに各種行事の記録を残し、自己の振り返りの機会を設け、進路意識の向上につなげた。 ・1年の「総合的な探究の時間」は、系統立てて進路学習を行い、校外研修や職場体験フェスタなど、進路目標を明確にする機会をつくることができた。 ・求人票等の進路情報の提供がChromeBookを活用して行うことができた。
	進路希望の達成	進路目標実現の進路保障	進路選択のミスマッチを解消し、個に応じた就職・進学体制の確立と進路目標達成100%を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で情報の共有化を図り、組織として進路指導にあたる。 ・3年生は「総合的な探究の時間」で各自目指す進路分野に関する探究活動を行う。 ・進学希望者へは、学力向上に向けて放課後学習会などを活用し、個別指導の充実を図る。 ・職員は、各種説明会等に積極的に参加し、入試制度等の変更や採用選考等について生徒に情報提供できる体制を強化する。 ・就職希望者へは、キャリアサポーターや就職支援担当を中心に面談を行う。 ・企業訪問を積極的に行い、そこで得た情報を生徒への指導、支援に生かす。 ・個別対応が必要な生徒は、保護者と連携し適切な進路先を決めていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供はChromeBookで行えるようになった。さらに全職員が利用しやすい工夫をしていく。 ・3年の「総合的な探究の時間」では、自分の適性と希望する進路について考え、進路決定につなげることができた。 ・計画的に放課後学習会を行うことができた。基礎学力を付けさせるためには、学習習慣を定着させる必要がある。 ・入試制度や採用選考が多様化しているため、さらなる情報提供が必要である。 ・計画的な就職希望者面談や就職だより等での就職情報を提供することで進路決定につなげている。早期離職防止に向けての対策が必要である。 ・今年度も基礎学力不足等で不調だった生徒がおり、さらなる学力保障への取組が必要である。 ・支援を要する生徒が増加傾向にあり、教育相談部や各種機関と早期に連携する必要がある。

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	整容の定着	生徒が主体的に校則の見直し（クラス討議→代議員会→生徒総会→検討委員会）に取り組むことで、整容に関する意識向上及び定着を図り、指導対象者ゼロを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期始めの整容検査を一斉に実施し、全校生徒及び教職員が共通理解の上で整容指導を徹底する。 継続指導対象生徒の状況等を教職員間で情報共有し、全教職員で個別の指導、支援にあたる。 必要に応じて学年毎の整容検査を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 各学期始めに実施する整容検査では、1学期36名2学期20名3学期27名と減少から増加へと変化した。 また整容に関する意識が高まったとは言えず、傾向として対象者の7割が1年生で、学年が進むにつれて対象者は減少している。 生徒が自主的に整容を整える習慣が身に付くような対応を考え、今後も継続した形で、再検査 対象0を目標に指導をしていきたい。 その都度生徒会による協議、生徒指導部会、各学年会での共通理解を深めながら、段階的に校則（整容面等）の定着を図ることができるようになってきた。
		マナーの向上	自発的に元気な挨拶ができ、TPOに応じた言葉遣いや適切な行動ができるようになる。 スマートフォンの利用マナーを向上させるとともに、問題行動件数を昨年度の半数以下にする。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な挨拶や公共の場におけるマナー向上を図るため、日々の授業や学校行事等で継続した指導を行う。 生徒会（各種委員会活動を含む）を活性化し、生徒が主体となり、校則の遵守やマナーの向上に向けて継続した啓発活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導での呼びかけなどでは、大部分の生徒が積極的に挨拶できているが、校内での様子を見ると、まだそれが習慣的になっていないと言えない。その場に応じた適切な言動を実践できるよう指導したい。 問題行動件数は3件6名で減少しているが、傾向としてはSNS関連のトラブルが増加している。今後も継続指導を怠らないようにしたい。 スマートフォンの指導件数は、昨年度16件から17件と微増しているため、今後も継続してマナーアップを図っていきたい。
人権教育の推進	人権・同和教育の推進と命を大切にすることを育む指導の取り組み	差別に気付き、いじめや差別を許さない心を育て、行動に移すことを目指した授業実践	被差別部落の歴史、水俣病やハンセン病に関する差別、就職差別や結婚差別について、生徒が自らの生き方と重ねて自らの思いを表現することができるような授業実践を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の授業について、各学年の人権教育推進委員と指導案の検討を行う際に、授業の進め方の確認を確実に進行。 各学期の授業に向けた各学年の事前研修会において、指導案の内容と指導の仕方についての確認を確実に進行。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、各学期の人権教育LHRに向けた準備を進めることができた。 推進委員会での協議および各学年担当者との事前打ち合わせを早い段階で行うことができたので、各学年の担当者やLHR担任による事前研修を十分に行うことができた。 ここ数年、ほぼ同じ題材での授業になっており、今後、新たな教材の開発にも取り組んでいく必要がある。
		教職員が人権・同和教育に主体的に取り組む、思いを交流させる研修体制の充実	人権・同和教育に関する研修会への参加や、自らの取り組みを見つめ直すレポートの作成を通して人権感覚を磨くとともに、それぞれの思いを交流させる取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 校内におけるレポート研修会において、全員のレポート報告と感想の交流ができるよう班編成や時間の配分を計画的に行う。 人権教育に関する校外研修について、年間2回以上の参加を本校職員に促す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 事前に各班全員が発表する形態で行うことを予告したことで、レポートの提出が円滑に行われた。レポート研修会当日は人権教育推進委員を各班に1人ずつ配置し、昨年度よりも班の数を増やして、参加者一人一人について発表・質疑応答を行う時間を十分に確保できた。 校外研修についても学年所属の職員については、ほぼ全員が年間に2回以上参加することができた。学年部以外の職員の参加についても今後とも促していきたい。

いじめ防 止等	命を大切に する心を 育む指導	生徒の思いを知り、 心のきずなを深める 取り組みの充実	心のアンケートや スクールサインへ の投稿、二者面談、 さらに、心のきず なを深めるLHR を経ての生徒の心 の変容を確認する などして、生徒の 気持ちや思いの把 握を行う。	・各学期実施の「心のアンケート」 の結果を全職員で共有すると ともに、担任による二者面談を 各学期で実施する。また、スク ールサインへの投稿を含めて全 校集会時などに生徒にメッセ ージをなげかける。 ・心のきずなを深めるLHRの事 前研修会を各学年で実施する。	A	・心のアンケートについては、気にな る回答についてHR担任と内容の確 認を行い、必要に応じて生徒への聞 き取りを行うなど、きめ細かな対応 を行うことができた。全校集会時 にも生徒へのフィードバックをす ることができた。 ・心のきずなを深めるLHRについ ては、各学年で充実した準備と実践 ができた。今後は新たな教材の開発 にも取り組んでいきたい。
	すべての 生徒にと って、安 心・安全 な生活が できるい じめのな い環境の 確立	いじめを早期に見 出し、重大事態に至 る前に対応できる体制 づくりの構築	生徒の変化やサイ ンについて定期的 に職員間で情報を 共有するとともに 情報集約担当者 を中心に対象とな る事案について継続 的・組織的な確認 を行うために情報 収集を行う。	・「スクールサイン」アプリの登 録について、全校集会時に説明 するとともに、継続的に登録を 呼びかけ、8割以上の生徒に登 録させる。 ・「いじめを受けた」生徒の事案 について、担任や関係職員との情 報共有を随時行っていく。	A	・スクールサインの登録についてはH R担任からの呼びかけとともに、追 加的に登録の促進を行うことで9割 近くの生徒が登録を済ませている。 ・スクールサイン、心のアンケートを とおしていじめを疑われる事案につ いて、管理職との相談のもと、HR 担任や関係職員と細やかに情報共有 を行うことができた。 ・いじめと認知した事案は解決済み、 または解決の方向に向かっている。 今後も経過を観察し、情報の集約や 共有に努めていく必要がある。
地域連携 (コミュニ ティ・ス クール)	学校運営 協議会 (総合型 コミュニ ティ・ス クール) における 学校運営 協議会の 推進	学校運営協議会での 共通理解と協力体制 の構築による円滑な 運営	本校の魅力化や特 色の発信等に向け た意見交換・議論 を行い、地域協働 による教育活動の 活性化に繋げる。	・年間2回以上、学校運営協議会 を開催する。 ・各委員から幅広く意見や疑問、改 善案を伺い、学校運営に活かし、 学校課題の解決についての評価 を行う。	B	・年間2回の会議を実施し、生徒の実 践発表等を今年度も継続して実施 し、本校生徒の取組や現状を知っ ていただく機会となった。 ・授業見学、体育大会、北稜祭(文化 祭)への案内を行い、本校の教育活 動を参観いただいた。 ・今年度の本校の課題解決に向けご 意見と評価をいただき、次年度の具 体的目標の設定に繋げる。
	学校防災 活動およ び防災教 育への取 り組み	防災教育の充実及び 災害時における生徒 ・職員の安否確認、 危機管理体制の構築 。災害時に必要とな る備品や備蓄の確認	日常的な防災意識 を高めるための防 災教育と避難訓練 を実施する。 学校防災(豪雨・ 土砂災害・地震・ 津波)マニュアル 、防災組織及び指 示系統、連絡体制 等の役割等につ いての職員間の共 通理解を促進す る。定期的な備 品の確認、危険箇 所点検を実施す る。	・避難訓練(シェイクアウト訓練 を含む)を年2回以上実施する 。 ・防災マニュアル及び避難所運営 マニュアルの見直し、点検及び 確認を行う。 ・職員間の共通認識を図り、日常 的に危機管理意識を高め、教科 と関連付けた防災教育に取り組 む。 ・年1回の備品点検を行い、学期 1回以上の校舎内外の点検を行 う。	B	・シェイクアウト訓練を年2回、防災 避難訓練を1回、計3回の訓練を 行うことが出来た。また、職員の 防災意識の向上につながった。 ・石貫果樹園の防災マニュアル見 直しを行った。 ・備蓄品の点検を行い、備蓄品の 買い足しについての検討を進めて いる。 ・危険箇所点検など防災担当者 で各学期毎に行い、事務担当へ 必要ヶ所を依頼した。(校舎内外)
特別支援 教育	特別な支 援を要す る生徒へ の適切な 対応	組織的な支援計画及 び指導計画の作成と 確実な支援の実施及 び評価	支援を要する生徒 について、支援計 画及び指導計画を 作成し、切れ目の ない支援を行う。 支援を要する生徒 が安全に安心して 学べる合理的配慮 に学校全体で取り 組む。	・特別支援教育校内推進委員会を 適宜開催し、校内での支援体制 の方針決定や情報共有を行う。 ・生徒理解研修や教育相談部会 を開催し、生徒が抱える背景や 指導上の注意点について職員の 共通理解を図る。 ・巡回相談員制度を活用し、生 徒の支援計画の作成や見直し 及び進路指導等について定期的 に指導助言を仰ぐ。	B	・特別支援教育校内推進委員会を 年3回開催し、校内での支援体 制の方針決定や情報共有を行う ことができた。 ・支援を要する生徒について、 担任、教科担当者、特別支援 コーディネーターで随時情報 交換会を行い、個に応じた支 援に取り組むことができた。 ・巡回相談員制度の周知が不 十分で活用する機会が少なかつ た。

環境教育	環境調和型社会の実現及び校内美化の推進	環境保全活動や学校版環境ISOなどの啓発活動	教室移動時の消灯、ゴミ分別の徹底し、学期ごとに安全点検を実施しながら安全な環境づくりに取り組む。 生徒：廃棄物の排出量を前年度比5%削減する。 職員：水道使用量を前年度比5%削減する。	・全生徒へ集会、ポスター等で呼びかけ、啓発活動を行う。	B	・掃除時間を中心に担当の先生方で呼びかけを行った。各教室のごみ分別はできているが、部活動でのごみが分別できていないところもあった。安全点検では事務室に協力していただきほぼ改善できている。 ・学校環境版ISOでは生徒は目標達成ができた。職員目標では8月に農業用ポンプ故障、漏水があり、数値が正確でないため来年度も引き続き取り組んでいきたい。
	環境調和型社会の実現及び校内美化の推進	校内美化、地域ボランティア活動の計画実施	各学期、各学年での学年別掃除の充実。	・学年別掃除を体育大会等の学校行事前に実施し美化意識向上を図る。 ・アンケートによる生徒自己評価の実施。	B	・生徒減で外庭等の掃除が毎日できないため、学校行事前の学年別大掃除はとても必要な活動となっている。学年で取り組むことで日頃の掃除とは違い、美化意識向上へとつながっている。 ・学校評価アンケート結果から、生徒の約90%が高い美化意識をもって清掃活動に取り組んでいる。
保健管理	健康に関する指導体制整備	各個人での感染防止対策の継続	感染防止対策の必要性を理解し、自主的な行動で感染防止対策を行う。	・マスク、手洗いで自主的な行動を行い、感染防止を行う。 ・換気の徹底、CO2モニターの設置。	B	・効果的な換気の仕方を具体的に示し常時換気を徹底した。インフルエンザ流行時に少し流行が見られたが、学級閉鎖までは至らなかった。 ・来年度は保健委員を中心に手洗いや咳エチケットなどの呼びかけを行いたい。
		規則正しい生活習慣の確立	生徒が「自身の健康」に興味関心を持ち、自己管理できる。	・健康診断の事後指導を徹底する。 ・学校医、育友会、専門機関との連携を図り、生徒の健康課題を共有し課題に対しての取り組みを行う。	B	・健康診断終了後すぐに結果のお知らせを配布することで早い段階で治療に行く生徒が多くなった。 ・未治療の生徒が多いため、個別指導を徹底する必要がある。
		保健相談の充実	心身共に健康で落ち着いた学校生活を送ることができるようにする。	・科・学年・担任と連携を図り、個別での指導を中心に行う。必要に応じて学校カウンセリングを活用するとともに、主治医との連携を図る。	A	・担任や学年主任と連携し情報収集に努めた。必要に応じてSCやSSWに繋がったり、主治医と連携することでより良い支援につながった。
専門教育	専門教育の充実	魅力ある学科づくり、地域への発信	【園芸科】 花壇交流会など交流活動を積極的に行う。 学校ブログやInstagramを活用し、学科の情報を毎週発信する。	・近隣の小・中学校との花壇交流会や収穫交流会を実施する。 ・学校ブログやInstagramに各部門の授業の様子をアップしてもらえるように情報を提供する。 ・中学生からより関心をよせられるように、校外販売実習のユニフォームを作成する。	A	・近隣の小・中学校との交流会の実施回数の増加、昨年の実績を踏まえた内容の工夫など、発展的な変化を加えながら計画することができた。 ・家政科に協力していただき、生徒たちにアンケートをとりながら販売用エプロンの作成に取り組んだ。来年は外部での実習等でどんどん実用化したい。 ・園芸科の授業風景含め、学科の取り組みや魅力をインスタ・ブログに毎週2回投稿するなど、積極的に情報発信した。

専門教育	専門教育の充実	魅力ある学科づくり、地域への発信	<p>【造園科】</p> <p>地域連携を図り、地域の行事やイベントの出展など積極的な参加を実践する。学科の特色を生かした情報発信。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然文化財等の管理に年2回参加する。また、授業で学んだ専門的知識や技術を地域に還元し、地域交流などを通してしてやりがいと達成感を身に付ける。 ・特色ある学科の取り組みや生徒の活動を毎週発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県指定天然記念物「山田のフジ」の剪定に2回参加できた。地域の方々や企業との連携など交流を深めることができた。 ・近隣の幼稚園や小中学校と連携し、交流活動や門松製作ができた。また、玉名市内（図書館、市役所）に箱庭を展示し、造園の魅力を伝えることができた。また、県外で行われたガーデンショーでは県内初となる高校生での最優秀を受賞するなど結果を残すことができた。 ・交流活動などの際には、報道機関等及び学校ブログやSNS等を利用して学科のPR活動には力を入れることができた。
			<p>【商業科】</p> <p>生徒間での学び合いを通して自主性を高める。体験入学や文化祭、学校HP等を活用して、学科の取り組みを、年間を通して発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に商業技術を身に付けるために、学科集会をはじめ3学年が一緒に活動する時間を設定する。 ・学科の活動内容がわかりやすく伝わるように工夫して発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・この3年間、学科集会を学期に1回、12月にビジネス速度大会を継続して実施し、学科交流と技術向上につなげてきた。学校HPで学科の活動を紹介するとともに、7月から11月までは販売実習（北稜フェア）の準備から当日までの様子を商業科Instagramから定期的に配信した。 ・体験入学は、学年ごとに役割を決めて3年生は学科の取り組みを紹介、2年生は名刺交換の指導、1年生は授業の様子など学校生活の様子を紹介し、全員で取り組んだ。
			<p>【家政科】</p> <p>幅広い学習や体験活動を通して、生活力を高め、豊かな人間性を育成する。学科の取り組みを地域へ発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目や学科行事等で、地域との連携・交流の機会を増やし、人との繋がりを学ぶ。 ・北稜日記（月に3回以上）や、家庭クラブ通信（学期に1回以上）を通して、学科の取り組みや生徒の活動の様子を発信する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・玉名市福祉協校校としての取り組み（保育地域施設への布カレンダー寄贈）ができた。 ・地域や他学科との連携による交流活動（布や段ボール、ペットボトル等の廃材を活用したおもちゃ製作と幼稚園児との遊び交流）を実施できた。 ・学校HP（北稜日記）や家庭クラブ通信、行事（文化祭）、地域での学科紹介（小物づくりワークショップ）等で魅力発信できた。 ・「熊本県産業教育振興会理事会・総会における生徒意見発表」で学科の魅力を伝えることができた。
専門教育	高い専門性と職業観の育成	専門性の向上と将来を見据えた系統的な学習展開	<p>【園芸科】</p> <p>地域と連携したプロジェクト学習を行い、生徒の達成感を高める。教育課程に適した農場作りを行い、生徒の経営感覚とコミュニケーション能力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先進農家や企業、農業大学校と連携し、現場実習や先進地研修の充実を図る。海外研修等の積極的な活用を図る。 ・経営感覚を育成できる教材の選択や販売実習等を取り入れた農場経営を行う。 ・授業で扱う作目を再検討し、教科の特性を更に生かせるよう授業展開を見直す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・県立農業大学校との連携プロジェクト学習や先進地研修の実施など、外部機関と連携した学習活動を行い、生徒たちの学びを深めることができた。 ・販売実習をとおして、生産と消費について学ぶ機会をもうけるなど、経営者感覚を養う授業展開を行うことができた。 ・各部門ごとに授業で扱う作目について、農場の規模と照らし合わせながら今後更に検討していく必要がある。

専門教育	高い専門性と職業観の育成	専門性の向上と将来を見据えた系統的な学習展開	<p>【造園科】</p> <p>外部講師による技術指導を通じて、高度な専門技術を習得する。造園分野を幅広く学ぶために、充実した現場実習の実践に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業や専門職の方々と連携し、専門的知識・技術を習得する。 ・現場実習を通して、社会人としての望ましい態度やコミュニケーション能力を学ぶ。また、職業人としての資質を育む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就業支援プロジェクト事業でものづくりマイスターの方々より、専門的知識と技術の向上につながる指導を受けることができ、造園技能検定の合格率も90%を超える結果につながった。 ・現場実習を通して、基本的な生活習慣の必要性やコミュニケーション能力を学ぶことができた。受け入れ企業の評価も全体的に見て良い評価を得ることができた。現場実習で得た知識・技術を次のステップに生かせるよう指導していく必要がある。
			<p>【商業科】</p> <p>長期インターンシップや販売実習などの実践的・体験的な活動を通して専門性を高める。コミュニケーション能力の育成と進路意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習を通して自己の課題に対する改善と進路目標の設定を行う。外部講師を招へいし、様々な場面を設定した基礎的なコミュニケーションの方法を学ぶ。 ・実際の店舗経営にあたり、前年度の成果と課題を踏まえ3年生を軸に学科全体で解決する能力を育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・長洲町で行われた「第1回金魚を飛ばせ」イベントに、3年生は出店・1・2年生は運営ボランティアで参加した。これらの体験的な活動での学びは、販売実習にも活かされ、3年生を中心に学科全体で新たな取り組みに挑戦することができた。 ・今年度から始まった3年生の観光ビジネスの授業では、万田坑や高瀬裏川水際緑地公園の現地研修を取り入れ、地域理解を深めた。 ・3年生は商研発表や商品開発、2年生はマーケティングの一環として高校生百貨店に参加し、自己課題の発見や進路意識の向上につながった。
			<p>【家政科】</p> <p>家庭に関する専門科目や外部講師による学習を通して専門性を高める。進路意識や職業観の向上を図る。外部団体との実践的な取り組みを通して、コミュニケーション能力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や専門職の方を招いての講習会を実施する。 ・地域施設での実習など交流の機会をつくる。 ・実践的体験を増やす。 ・世代間交流を通して福祉の心を育み、社会人としての適切な態度を学ぶ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門の外部講師による講習会（食の名人講習会、浴衣着付け講習会、和菓子講習会、テーブルマナー講習会）を実施できた。 ・社会見学（ソーセージ作り、企業（㈱マークス）、玉名市防災館）を実施できた。 ・インターンシップを3日間実施し、進路意識を高めることができた。 ・総合選択「設定保育」では、保育園実習を2日間行うことができた。 ・さまざまな体験学習を通し、生徒の進路意識を上げ、進路目標の早期設定を目指す。

4 学校関係者評価

5 総合評価